

1 研究のねらい

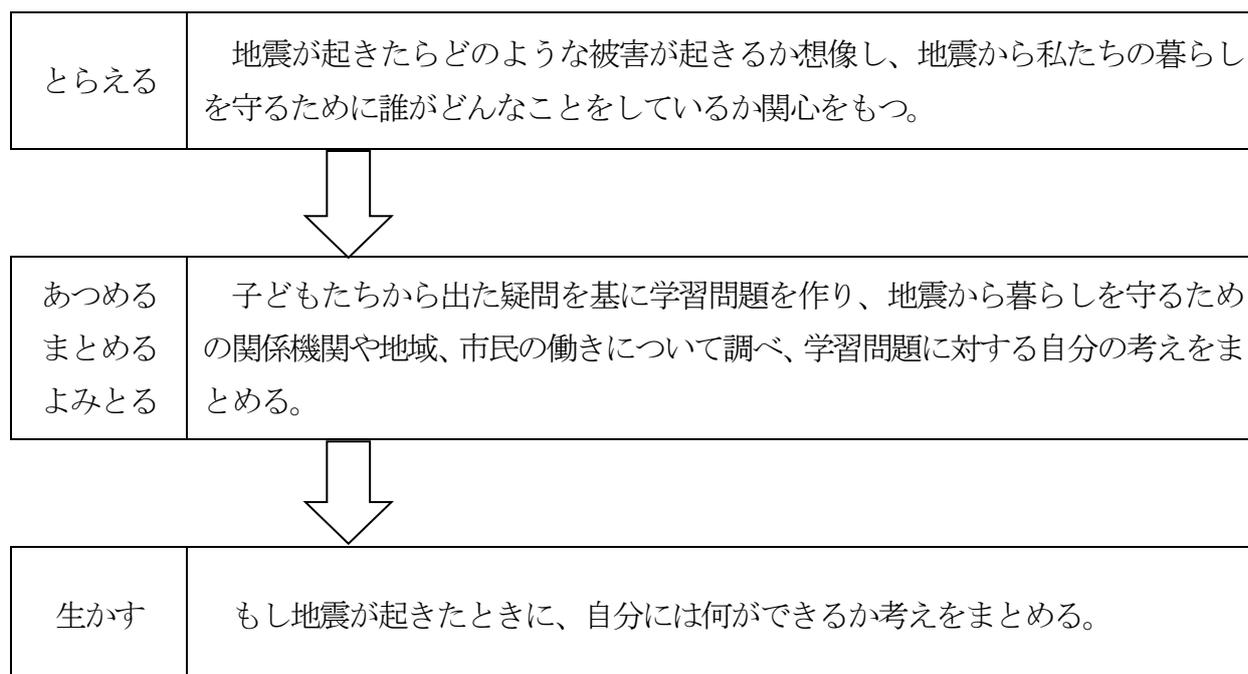
私は、社会科学習において、資料を活用して調べたことを基に、自分の意見を持ち、友達同士で深め合うことができる子どもを育てたいと考える。資料は、子どもたちが出会ったことのない社会的事象を身近に捉えやすくする。そして、資料を活用することは、社会的事象の意味や働きを理解することにつながる。さらに、資料を活用し理解することは、資料と自分たちの社会生活を関連付けて考えるようになる。これら一連の学習において、具体的な統計資料を目的に応じて効果的に活用することは、大変重要であると考えている。

学習指導要領では、「児童一人一人が社会的な見方や考え方が養われるよう、社会的事象を比較・関連付け・統合して見たり考えたりすることができることが大切である」と述べられている。また、令和3年度名古屋市小中学校指導方針では、「統計的な手法を学習や生活の中で活用することを通して、統計的な見方や考え方をを用いて、問題の解決に当たる能力や態度を育成する」ことが示されており、これらの力を育成していくためには、社会科において統計的手法を用いた学習を行うことは、有効であると考えている。

そこで、第4学年の社会科の学習を通して、図やグラフを比較しやすいように提示したり、調べたことを整理し、自分の考えをまとめ深める活動を工夫したりして、地震から私たちの暮らしを守る諸活動について考えさせる。

2 研究の内容

(1) 基本的な考え



(2) 授業実践

① 単元名 「地しんからくらしを守る」

② 単元のねらい

自然災害から人々を守る活動について、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、さまざまな協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解することができる。また、調べたことを基に、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えることができる。

③ 統計教育上のねらい

「とらえる」段階で、学校での避難訓練を想起させ、地震から暮らしを守る活動に関心をもたせることができるようにする。また「あつめる」「まとめる」「よみとる」段階で、様々な統計資料等を活用して、さまざまな立場の人たちが、地震から暮らしを守っていることを理解することができるようにする。さらに、「生かす」段階で、地震から暮らしを守るために、自分には何ができるか、自分事として考えることを考えることができるようにする。

④ 実践の流れ

段階	学習活動
とらえる	① 学校の避難訓練を思い出し、訓練の注意点や訓練を行う理由を考える。もし地震が起きたら、どのような被害が起きるか考える。
あつめる	② 知りたいことを話し合い、 学習問題Ⅰ「地しんからくらしを守るために、だれが何をしているのか。」 を設定する。また、 学習問題 についての予想を基に、地震からくらしを守るための働きについて調べる学習計画を立てる。 ③ 地震からくらしを守るための、関係機関の働きについて、港防災センターの方から話を聞く。 ④ 地震からくらしを守るための、地域の働きについて調べる。 ⑤ 地震からくらしを守るための、市民（家族や近所の人からの聞き取り）の働きについて調べる。
まとめる	⑥ 調べて分かったことを、立場ごとに、「すっきりシート」に整理する。 ⑦ 調べて分かったことを基に、 学習問題Ⅰ について、自分の考えをまとめる。
よみとる	⑧ 小グループで自分の書いた付箋紙を出し合い、紹介し合う。紹介し合った後に、再度、 学習問題 に対する自分の考えをまとめる。
生かす	⑨ これまでの学習を振り返り、 学習問題Ⅱ「地しんからくらしを守るために、自分には何ができるだろう。」 を設定し、自分の考えをまとめる。

⑤ 実践の様子

とらえる段階【第1時】

学校の避難訓練について話題を振った後、避難訓練行うときには、どんなことに気を付けているか、なぜ、避難訓練が行われているか考えさせた。子どもたちが真剣に思い出したところで、もし地震が起きたら、どんな被害が出るか考えさせた。すると、「多くの人が亡くなるから怖い」「一瞬で、大事なものがなくなってしまう」など、自分事に置き換えて考える姿が見られた。

あつめる段階【第2時～第5時】

第2時では、東日本大震災の被害の様子や南海トラフ地震の被害予測について考えさせ、それを基に、学習問題Ⅰ「地しんからくらしを守るために、だれが何をしているのか。」を設定した。また、調べる立場を「自助」「共助」「公助」とした。

第3時は、港防災センターで防災教育アドバイザーを務めているK氏を招いて、「公助」だけでなく「自助」や「共助」についての話を聞き、「もっと自分たちにできることを調べたい。」と強く思う子どもが多く見られた。

第4時は、「公助」について、第5時は「共助」「自助」について、資料を基に調べた。

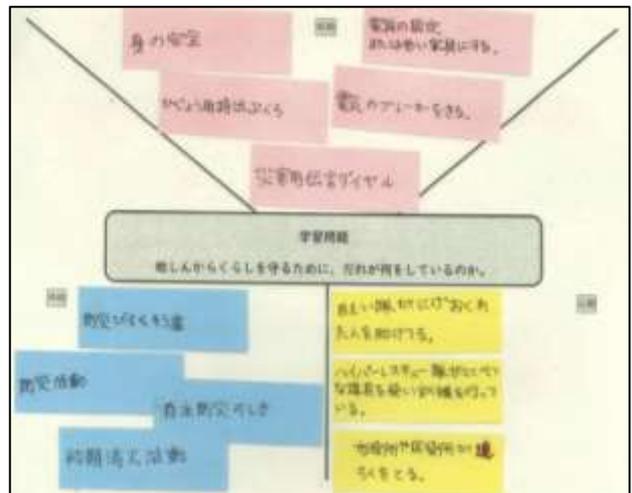
「公助」については、国が緊急地震速報を出していることや、自衛隊・ハイパーレスキュー隊が活動したり訓練したりしていることが分かった。「共助」については、近所の人に声を掛け合ったり、地域の防災訓練に参加したりすることの大切さが分かった。「自助」について調べるために、各家庭でどのような工夫をしているかを聞くと、「家具を固定している。」「避難場所を確認している。」などの意見が出た。

まとめる段階【第6～7時】

第5時までに調べたことを、「自助」(赤)、「公助」(黄)、「共助」(青)の3つの立場に分けて、右のような「すっきりシート」にまとめた。子どもたちは、外部講師や家庭で聞いたことの中で、大切だと思う取組を、端的にたくさん書くことができた。

「すっきりシート」にまとめたことの中から、学習問題Ⅰ「地しんからくらしを守るために、だれが何をしているのか。」の解決のために大切だと思う順に付箋紙を4つ選び、選んだ理由を「はっきりシート」に書いた。

そして、「はっきりシート」に書いたことを基に、A児は右のように学習問題の答えをまとめることができた。



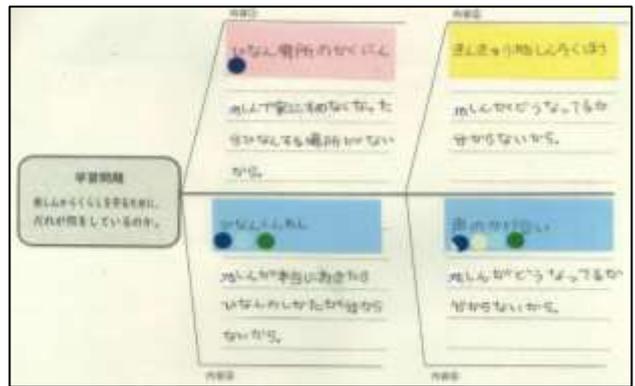
【A児が作成した「すっきりシート」】

地しんからくらしを守るために市がハザードマップをつくらせてる。さんじょの人が声のかけ合いもしてる。国がきんきゅう地しんをつくほうをだしている。学校がひびん訓練を行っている。

【A児の学習問題の答え（1回目）】

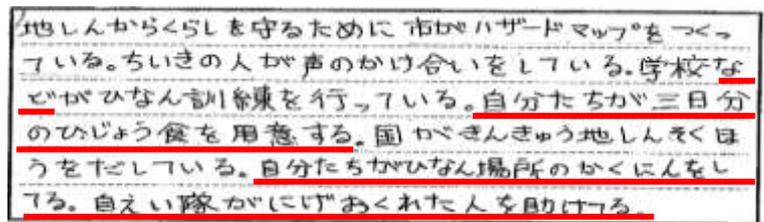
よみとる段階【第8時】

学習問題の答えをまとめた後に、「はっきりシート」に貼った付箋紙をグループで読み合う「教え合いタイム」を行い、友達の考えを読み取る活動を行った。その際、友達の付箋紙の中でよいと思った付箋紙には、シールを貼ってから自分の付箋紙に書いて、自分の考えに付け足すようにした。



【「教え合いタイム」後のA児の「はっきりシート」】

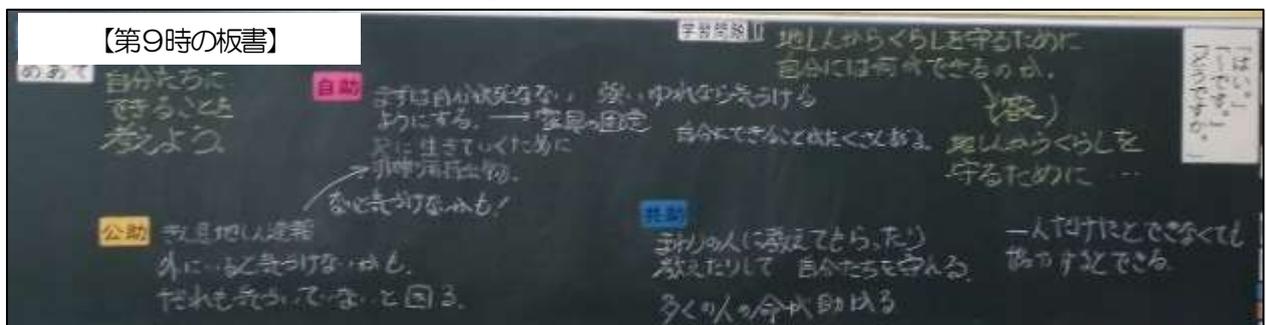
最後に、自分の考えをもう一度まとめ直すと、A児は、右のように、「自助」「公助」「共助」3つの視点を全て含み、友達の考えを取り入れて、自分の考えを書くことができた。(下線部は付け足した部分)



【A児の学習問題の答え(2回目)】

生かす段階【第9時】

これまでの学習を振り返った後、自分事として考えることができるよう、学習問題Ⅱ「地しんからくらしを守るために、自分には何ができるだろう。」を投げかけた。「公助」「共助」も有効活用し、寝具を固定する、非常用の持ち出し袋を用意するなど「自助」をしっかりと行っていくとよいなどの意見が出された。



(3) 考察

外部講師を活用したり資料を丁寧に読み取ったりすること、「すっきりシート」「はっきりシート」を活用して、調べたことを整理し、考えをまとめる活動を行ったりすることで、地震から暮らしを守るさまざまな取組をきちんと理解し、地震から暮らしを守るために、さまざまな立場の人たちが努力していることや、自分でできることを考えることができた。

3 研究のまとめ

統計的手法を活用した社会科学習は、私たちの生活に関わる社会的事象や課題を考える上で有効であることが明らかになった。今後も、統計的手法を活用した社会科学習の在り方を探究していきたい。